

宮崎善仁会病院 リウマチセンターニュース

第24号(2024年3月号 [2024/3/11 発行])

リウマチ科に通院中のみなさんは、いかにお過ごしでしょうか？季節の変わり目で暑かったり、寒かったりですが、体調を崩されていないでしょうか。また、新型コロナ感染が下火になったとはいえ、まだ患者さんをあちこちでお見受けします。引き続き、普段からの感染対策を、しっかり行っていきましょう。さて、第18号(2023年9月発行)のリウマチセンターニュースで骨粗鬆症のお話をしましたが、今回は、リウマチ治療でも使用することのある「ステロイド」による骨粗鬆症に関して、お話しさせて頂きたいと思います。

-まず、「ステロイド」とは-

「ステロイド」という呼び名で知られているこの薬は、正式には「グルココルチコイド(GC)」と言います。人体の副腎という臓器で毎日作られる、副腎皮質ホルモンの成分で、これを薬として私たちは治療に用いています。GCにはいろいろな効能があり、炎症を抑える、免疫を抑える、糖を作る、タンパク質を分解するなどが挙げられ、このうちの炎症や免疫を抑える作用を利用して、リウマチや膠原病の治療に用いているというわけです。リウマチでは、治療を始めたばかりの、関節の痛みが強く、CRPなどの炎症反応が高い時期に、いわゆる抗リウマチ薬と一緒にGCを内服することで、速やかに痛みや炎症を抑えることが期待できます。

-GCには副作用がある-

一方で、GCにはいろいろな種類の副作用があります。もともとGCには、私たちの体で毎朝、副腎から分泌されて、1日を元気に過ごせるように活力を与える、という作用があります。これが薬としてたくさん体内に入ると、元気が高じて眠れない[不眠]という副作用になります。他にも、食欲が出ることで食べ過ぎて太ってしまったり[肥満]、血圧が上がったり[高血圧]、糖を作る作用から血糖値を上げて糖尿病になってしまったり[耐糖能異常]、免疫を抑えることで感染症に弱くなったり[易感染]、傷の治りが遅くなったり[創傷治癒遅延]…と、数えてみると、少し怖くなってきますね。そして、今回のテーマの「骨粗鬆症」も、長い期間GCの服用を継続すると必ず出てくる、副作用の一つとなります。こうしたことから、GCを治療薬として用いる場合は、対策をしつ

り行うことが大切になります。

-骨粗鬆症とは-

骨粗鬆症に関して、詳しくは、第18号(2023年9月発行)のリウマチセンターニュースをご参照頂ければと存じます。私たちは年齢を重ねると、骨が脆くなってきます。女性は特に、閉経を迎えるとホルモンのバランスに変化が生じ、骨粗鬆症になりやすいと言われます(原発性骨粗鬆症)。一方、上記のGCの副作用で起きる骨粗鬆症は「グルココルチコイド誘発性骨粗鬆症」と呼ばれます。これは女性に限らず、GCを服用していれば若くても、男性であっても起こるものです。せっかく治療のために始めたGCのために骨折を起こしては、本末転倒ですよね。こうしたことのないよう、この薬剤による治療を受けている患者さんには、適切な対策をしましょう、ということで作成されたのが「グルココルチコイド誘発性骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン」です。昨年2023年に改訂版が発表されました。

このガイドラインでは、GCを3か月以上服用または服用予定の患者さんで、すでに骨折がある・65歳以上である・GCを1日に7.5mg以上服用している・骨密度がYAM(若年成人平均)70%未満である、のいずれかに該当する場合には、薬物治療をすべき、とされています。また、50歳以上65歳未満・GCを1日に5mg以上7.5mg未満服用している・骨密度がYAM70%以上80%未満のいずれか2項目を満たす場合も、薬物治療が推奨されています(図)。つまり、一定以上の用量のGCを開始する場合は、骨粗鬆症の治療を、GCを開始するのと同時に始めておきましょうというものです。

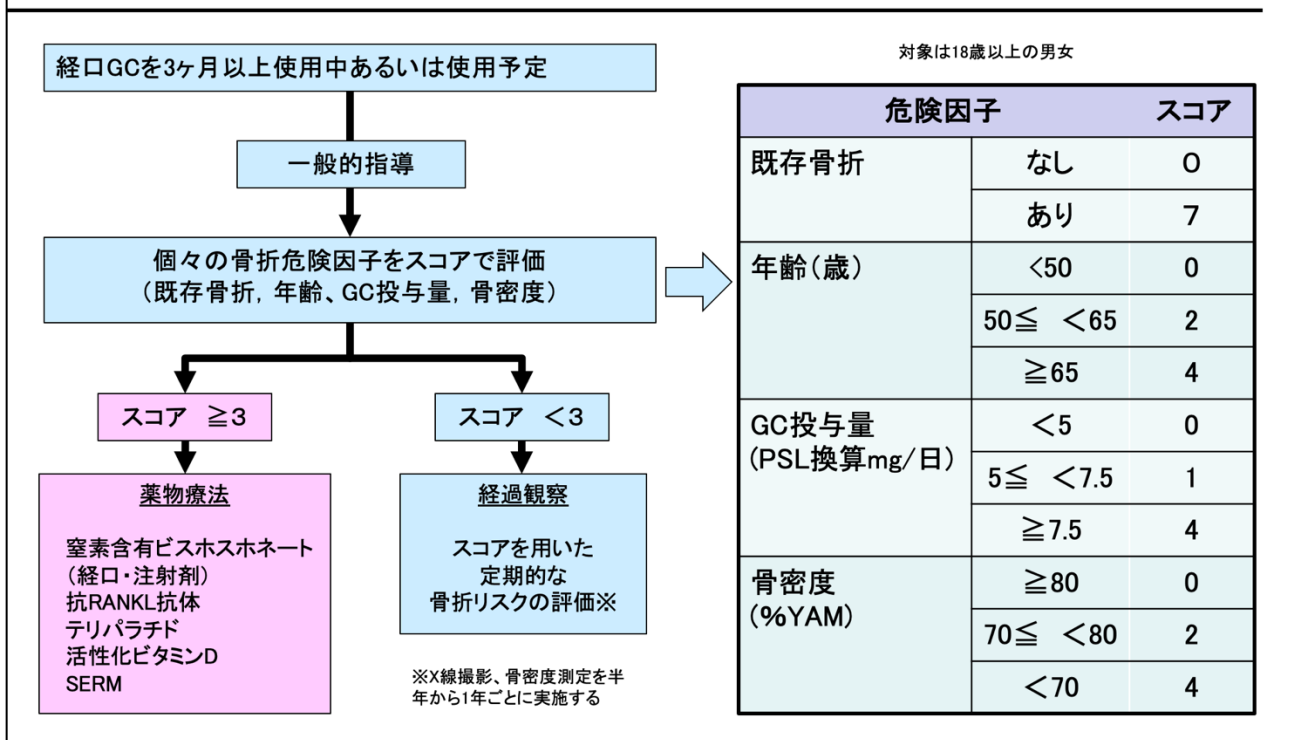
グルココルチコイド誘発性骨粗鬆症による骨折を予防するための治療法は、多くの臨床研究の結果から、ビスホスホネート製剤(注射、内服)、抗RANKL抗体(デノスマブ、注射)、テリパラチド(注射、内服)、活性型ビタミンD(内服)が、いずれも有用な薬剤として挙げられています。

加齢に伴う変化に加え、リウマチなどの膠原病でGCを使うことで、注意すべきことが増えてしまうのは、患者さんにも、医療者にも、とてもストレスになってしまいますが、適切な対処法はどれか常に検討され、新しい知見が追加されて、ガイドラインが作成・

更新されていきますので、こうした情報を参考に、一緒に対策し、より安全に治療を続

けていきましょう。(日高利彦)

グルココルチコイド誘発性骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン2023



第 67 回九州リウマチが開催されました

当院が主幹で 2024 年 3 月 2 日 (土) ~3 日 (日) に宮崎市民プラザにて、当院リウマチセンター所長、日高利彦会長の下、第 67 回九州リウマチが開催されました。多くのスタッフの協力の下、無事開催出来ました。学会発表の方も、筆頭演者で橋場医師 1 題、村井医師 1 題、今泉医師 1 題、発表させて頂きました。多くのご質問もあり大きな反響がありました。今回は意見交換会を開催させて頂き、多くのリウマチ医と情報交換を行い、今後の RA 診療に生かせる有意義な時間を持つことができました。多くの関係の方々に御礼申し上げます。



リウマチセンターニュースのバックナンバーの必要な方は当院の職員に気軽にお尋ね下さい。なお、当院のホームページでもバックナンバーを確認出来ます。

(https://www.m-zenjin.or.jp/publicity_cat/publicity_1)